

教育方針	教育基本法の本質にのっとり、人格の完成を目指し、民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を養い、公共の福祉に貢献する人間性豊かで実践的な技術者を養成する。	重点目標	ものづくりから人づくりへ — いい汗をかこう — 足もとをしっかり見つめ、広い視野と深い思考で、今を生きよう 1 確かな学力の定着と専門的実践力の育成 2 基本的な生活習慣の確立と自律心の育成 3 豊かな人間性・社会性の育成 4 望ましい勤労観や職業観の育成 5 安心・安全な学校づくりの推進
------	---	------	--

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
工業教育	えひめ未来マイスター育成事業の充実	インターンシップやデュアルシステム、マッチングフェアの充実と、えひめ未来マイスター育成事業を活用した地域産業界との更なる連携を図る。	A	インターンシップやマッチングフェア、デュアルシステム等において工業各料が積極的に実施した。それによって、地域産業界との更なる連携を図ることができた。	マッチングフェアやデュアルシステム等の実施体制を更に充実させて、早い時期からの専門的職業人の育成を図る。
	ものづくり教育の推進	各種のものづくり大会に積極的に参加し、外部支援団体・企業との連携を図り、生徒・教員のものづくりに関する技術・技能の向上に努める。ものづくり関係全国大会へ1部門以上の出場を目指す。 ものづくり企業を積極的に訪問し、匠の技教室の実施によって、生徒・教員のスキルアップを図るとともに、専門教育の更なる充実へ繋げる。	A B	工業各料で様々な競技大会に挑戦し、多くの部門において全国大会へ出場し、幅広い分野において成果が出た。また、生徒・教員のものづくりに関する技術・技能が向上した。 多くの企業見学や匠の技教室の実施によって、生徒・教員のスキルアップを図ることができ、専門教育を充実させることができた。	地元企業・外部支援団体との連携拡大を模索して、更なる指導体制の充実を図る。 実施する内容や時期、回数等を再検討して、今後における専門教育の更なる充実を図る。
	資格・検定取得の奨励	各種の検定試験等に積極的に挑戦させるために、授業や放課後の資格取得における指導体制の充実を図る。	B	工業各料において、授業や放課後、休日等における充実した指導によって、各種検定試験への取組の成果が表れた。	資格検定ごとの指導方法や内容を再検討して、授業・補習において更に充実した指導体制の確立を図る。
学習指導	基礎的・基本的な学力の定着	基礎力診断テストの結果をもとに、生徒の実態を把握し、基礎学力の定着と自主的な自己学習力の育成を図る。	B	基礎学力に不安のある生徒も少なからずいるが、基礎力診断テストに向けて課題をしてからテストを受ける生徒がほとんどで、学力向上に向けた意欲の向上が見られる。	1・2年生に対しては年3回基礎力診断テストを実施するので、その結果を担任・各科・各教科担当で共有し、しっかりと協力体制を築いて、学校全体で生徒の基礎学力向上に努める。
	教科指導の充実	校内外の各種研修会に主体的に参加し、教員の実践的な指導力の向上を図る。 生徒による授業評価を実施し、「はい」の回答率が100%になるように、授業内容と指導方法の改善を図る。	C A	研究授業は計画通り実施され、有意義な研究会も開かれた。全ての研修会を掲示板で周知した。多忙のため企画研修ができなかった。 全教科で全生徒を対象に実施した。データをまとめ、教員の指導方法の改善・指導力向上につなげている。また、生徒自身も自分の学習への取組方を振り返る良い機会とし、改善すべき点は改善するよう促した。	学校評価の結果と、各種教育目標を吟味し、効果的な研修を企画して、目指す学校の担い手の育成に尽力する。 授業評価の結果を基に、指導方法の検討・改善や指導力の向上に努める。生徒自身も、日頃の学校生活全般を振り返り、さらに充実した高校生活を送るための工夫を促す。
	図書室及び図書利用の促進	図書室利用の啓発に努め、読書会や集団読書の充実を図る。(生徒一人当たり年間貸出冊数3冊以上)	C	年間貸出冊数は1.96冊となった。図書館だよりを毎月発行し、読書会でスローリーディングを行った。朝読書を継続している。	一次情報を提供し、二次情報にアクセスしやすくする仕組みを導入する。埋もれた蔵書を発掘し、価値ある書籍を増やす。
特別活動	生徒会活動の充実	生徒会活動(80周年記念行事・運動会・文化祭・クラスマッチ等)への積極的な企画運営を目指す。	B	感染防止対策を徹底しながら、生徒主体の80周年行事を実施することができた。新旧生徒会役員も自主的に企画運営に取り組む生徒が増えてくるなど日ごろの積み重ねが発揮できているようである。	新生徒会役員を中心に、元の日常生活を見据えた学校行事等の企画運営を目指す。
	部活動の活性化	部活動加入率90%以上(A:70%以上 B:69~60% C:59~50% D:49~40% E:40%未満)とし、県総体110名以上、四国総体3競技以上を目指す。	B	部活動加入率は100%であった。運動部、文化部、生産的部ともに県総体、四国・全国大会で活躍することができた。また、弓道団体優勝という輝かしい成績で創立80周年に花を添えることができた。	制限のある部活動の中で、生徒たちは精一杯頑張っている。生徒たちの頑張りに応えられるように環境を整えていきたい。
	ボランティア活動の推進	総体推進委員会等、他校の生徒会とも協力し、活動への自主的・積極的な参加を促し、奉仕の心の育成を図る。	B	猛暑の中、四国インターハイを盛り上げ、積極的に高校生活活動に取り組むことができた。ボランティア活動は、まだまだ制限があり思うような活動ができていない現状である。	周囲に気を配りながらの生活があたりまえの行動になれるように指導、声掛けを行ってきたい。
生徒指導	問題行動の防止	生徒理解に努め、問題行動を未然に防止する。特別指導生徒数5人以上(A:5人以内 B:6~8人 C:9~11人 D:12~14人 E:15人以上)	D	4~5月に無断アルバイトでの特別指導生徒数が7件、連続して発生したこともあり、年間12名であった。10月以降は、0件で比較的落ち着いている様子である。	無断アルバイトなどの問題行動を保護者も容認している事実も見られた。より保護者に対し、理解や協力を得られるよう情報発信などに工夫したい。
	安全教育の推進	交通安全及び「命を守る」意識の高揚を図る。通学時の事故件数5件以内(A:5件以内 B:10件以内 C:15件以内 D:20件以内 E:21件以上)	B	通学時の事故件数は年間7件。病院搬送などの大きな事故はなかった。	本年度の事故は全て登校時に発生しており、余裕を持った安全通学を徹底できるよう呼び掛け、事故防止につなげたい。
	基本的な生活習慣の確立	生徒の規範意識の高揚と基本的な生活習慣の確立を図る。頭髪服装検査、合格率90%以上(A:90%以上 B:80~89% C:70~79% D:60~69% E:59%以下)	C	頭髪服装検査、合格率は72%。例年並みの成果であった。	身だしなみに対しては、大きな乱れは見られない。遅刻者数が一日平均0.5~0.8人(例年)であったのに対し、コロナ禍の影響もあり1.0人と増加。学校活動の意欲の向上を図る。
教育相談	充実した学校生活の支援	ホームルーム担任や養護教諭、科、専門機関との連携を密にし生徒の悩みの克服を支援し、不登校生徒3人以内を目標とする。	C	コロナの影響もあり、不登校傾向の生徒は増えた。多くは改善したが、目標の3人以内とはならなかった。今後の課題としたい。	生徒が不登校傾向となる前に対応するために、ホームルーム担任や養護教諭、科、専門機関との連携をさらに密にしていきたい。
		特別な配慮を要する生徒の実態把握に努め、学校生活を支援する。いじめ対策委員会の積極的活用を目指す。	B	本年度は、いじめ対策委員会を5回開き、5件のいじめを確認できた。5件全て、いじめは解消済みか解消傾向にある状況となっている。また、教育相談室を訪れる生徒は、去年より増加した。	本年度から、いじめアンケートを年3回とした。それを生かして、いじめの実態だけでなく、生徒の悩みや心の声等も把握できるように努めたい。

※ 評価は5段階 (A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった) とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
人権・ 同和教育	現職教育の充実	生徒の進路実現に向け、14項目の共通理解・共通実践を図る。教師自らが人権感覚を磨き、あらゆる教育活動において生徒の人権意識を高めようとする教員集団作りを目指す。	C	事前担任会で、資料や教材を提示し、教員の人権感覚が高まるよう努めた。学年の人権・同和教育HR活動の授業研修会では、愛媛県の取り組みを紹介したりした。	あらゆる教育活動において生徒の人権意識を高めることができるよう、全教職員と共通理解のもと人権・同和教育に関する啓発活動を行ってきたい。
	望ましい集団活動の推進	人権委員会を活性化し、学習を通じて、差別を許さない集団作りを目指す。人権委員の活動で学んだことを生徒全体にフィードバックする。「部落差別の解消に関する法律」について知っている生徒を100%にする。	B	人権集会や「人権だより なかま」を通して、「部落差別の解消に関する法律」ができた背景等深く学ぶ機会となり、生徒の認知度はほぼ100%に達した。人権委員が校外で学習したことや愛媛県の先人たちの熱い思いを受けついでいくことの大切さを全校生徒に人権集会の寸劇において伝えることができた。	人権委員会で学習したことを、全校生徒と共有し、「人権だより なかま」を通して保護者と話し合う機会が持てるよう工夫する。
進路 指導	進路意識の高揚	他課や外部との交流を深め、生徒の勤労観や職業観を育成する。「キャリア・パスポート」、進路希望調査、進路相談等を通して、より具体的に進路に対する意識を高めさせる。	A	具体的な進路希望調査を2年の3学期に1回、3年の1学期に2回実施することにより、意識の高揚を図り、生徒の進路希望状況の掌握に努めた。また、「キャリア・パスポート」を利用したホームルーム活動や積極的な進路相談も実施できた。	より早い時期から自分の適性を理解し、保護者と進路に関して相談させる。授業、ホームルーム活動、各種検査、学校行事を通して、より具体的に考えさせる。「キャリア・パスポート」のより積極的な活用方法を引き続き検討する。
	就職・進学指導の充実	生徒一人一人の適性や能力の把握に努め、キャリア教育の充実を図る。学校紹介による就職内定率100%、進路希望達成率100%（A:100% B:99～95% C:94～90% D:89～85% E:85%未満）を目指す。	A	就職については、就職希望者の全員が内定している。また、進学希望者については、大学進学希望者、専門学校希望者など全員が合格している。コロナ禍ではあったが、全員の進路が決めたことは非常に良いことである。	希望する進路に関係なく、コミュニケーション能力の向上が肝要であり、社会人としてのマナーや挨拶など、学ばせる事項はまだ多い。進学希望者については、1・2年生からオープンキャンパスなどに積極的に参加させる。就職希望者には、インターシップも活用しながら、地場産業や職種等を調べさせ、早くに職業観を身に付けさせる。
情報 管理	ICTの活用及び情報モラル教育の充実	一人一台端末を有効に活用し、授業における各教科の有効的なICT機器やWi-Fiの活用方法、情報モラルに関する効果的な指導方法を研究する。	B	アプリ(Teams等)を活用した課題の配布・回収、確認テスト等の実施が多く行われ、効果的に行えている。アプリも逐次機能向上がされており、周知して指導効率に繋げていきたい。	場面に応じて、えひめICT学習支援システム(EILS)やアプリの適切な利用を進めていきたい。また、情報端末やネットを正しく利用する知識や技術、情報モラルについて、工業高校生としてしっかりと身に付けさせたい。
	セキュリティ及びデータ管理の徹底	学習系/校務系ネットワークにおける効果的且つ安全なデータ管理について研究し、外部記憶媒体の利用低減化を図っていく。	B	利用端末の環境更新に伴い、データの整理及び情報の取り扱いに関して、セキュリティ意識が高まっている。	継続して外部記憶媒体の利用縮小と、情報スキルとセキュリティ意識向上に努めたい。
保健 厚生	健康管理能力の育成	保健委員会活動を通して、心身の健康管理に対する学びを深め、自己の健康管理ができる生徒の育成を目指す。	B	換気の徹底など感染症対策を行い、保健委員がリーダーとして率先して活動した。睡眠に関するアンケートを実施し、研究を行う。	引き続き感染症対策を行うとともに、健康(睡眠に関する)テーマを設定し、実態把握や改善に向けた取組を行いたい。
	防災意識の高揚	防災学習、避難訓練等の内容を見直し、防災意識の高揚に努めるとともに、施設面でも安全点検を徹底して、危機管理を行う。	B	避難訓練、シェイクアウト訓練を共に行うことができた。また、今治市防災マップを活用して、災害に備える知識を得ることができた。	「予告なし避難訓練」の実施などにより、教職員・生徒の危機管理意識を高めるとともに、施設安全点検等を的確に行う。
渉外 広報	PTA活動の活性化	生徒数の減少とともに保護者の数も減っているが、学校行事やPTA活動を現在の活気あるものを今後も維持していく。	B	新型コロナウイルス感染症により、中止になった行事が多かったが、PTA総会や文化祭パザーなど協力して実施することができた。	新しい生活様式に順応しながら、様々なPTA活動をコロナ禍以前のように活性化して再開させていきたい。
	きめ細かな情報提供	学校新聞や毎月のPTA通信の内容が形骸化しないよう、新しいものを導入する。	B	コロナ禍の中、PTA通信(月1回)・今工新聞(年2回)では生徒作品や生徒の活動、部活動での活躍した生徒の声を取り入れて、発行することができた。	毎月のPTA通信はホームページに掲載しつつ、紙媒体での情報提供も継続していきたい。
		体験入学や出前講座、ものづくり教室など、さまざまな活動を通して本校の魅力を外部に発信し、入学志願者数増加へつなげる。	A	体験入学や今工夏休みおもしろ講座などのイベントを行ったり、各種事業に地域と連携して取り組み、積極的に外部に発信した。	今後も継続して、本校の取組を積極的に地域に発信し、魅力を感じてもらえるような方策を検討していく。
学校 事務	人事管理の適正化	人事、給与、手当等の適正な支給と認定を行う。	B	適正な事務処理ができた。事務監査での指摘事項等もなかった。	引き続きダブルチェックと起案裁決の徹底に努める。
		心身の健康管理と事故防止を図る。	C	ストレスチェック集団分析結果は良好であった。公務災害もなかった。教職員健康管理医(産業医)との連携の見直しを提案した。ただし、超過近時間の多い教員の減少に努めているが、劇的な成果は見られない。	風通しの良い職場づくりに、引き続き全校態勢で取り組む。教職員の心身の健康を第一とし、働き方改革を推進する。本年度途中から始めた「早く帰ろうDAY」の実効性を上げる。
		危機管理意識の高揚に努める。	B	不祥事や公務災害等はなく、教職員の意識も高いと感じるが、さらに危機管理意識の高揚を図るための具体的な取組は、職員会議での短時間の研修や職朝・掲示板での周知にとどまっている。	会計の不適正処理や諸手当の不適正支給が起こらないよう、また不祥事や公務災害、校内での事故が起こらないよう、今後さらに研修等を通じて継続的に働きかけていく。
	経理事務の厳正化と効果的な執行	各会計の計画的な予算執行と迅速かつ適正な事務処理を行う。	B	各会計、各事業共に教職員からの要望を聴取し、予算の範囲内で計画的かつ適正な事務処理に努めた。	今後も教職員と連携を図り、計画的な予算執行と適正な事務処理が行えるよう努める。
		経費節減に努める。	B	更紙の廃止、コピー機の更新等を行い、また、教職員へ節電や経費節減へ周知した。	可能な限り過不足が出ないよう綿密な予算管理に努め、予算を最大限に活用する。
	文書管理の適正化	迅速な収受と適切な保存を行う。	B	校務系メッセージおよび掲示板を有効に活用し、迅速かつ適切な処理に努めた。	今後も引き続き迅速かつ適切な処理に努める。
		個人情報の厳正な管理を行う。	B	管理規程に則り、教職員および生徒情報について適切な管理に努めた。	今後も引き続き適切に管理を行う。
	施設・備品の適切管理	学校内外の潜在危険個所の除去と事故防止を図る。	A	体育館のバスケットボールゴールの改修および監視カメラの設置などをを行い、危険個所の除去ならびに事故防止に努めた。	今後も管理厚生課より提出される安全点検や教職員との情報収集により危険個所等の把握に努める。
生徒の学習・生活の場としての教育環境の整備と充実を図る。		A	中央通路の音響設備の新設に始まり、電話機、放送設備ならびに情報技術科実習室空調設備の更新し、教育環境の充実を図った。	次年度より本格的に校舎長寿命化改修事業が始まり、今まで以上に教職員との連携が求められる。工期も限られており、授業、校内行事等にも可能な限り配慮した調整に努める。	
教職員	ICTの活用による業務の負担軽減	校務系の充実と活用によって、文書処理や会議等の時間の短縮を図る。Teamsを有効活用することで、教育効果の向上と効率化を図る。	B	生徒一人一台端末の導入により作業内容に変化が見られ教育効果が少しずつ見られる。印刷機やコピー機の更新、ペーパーレス化を進めており、教職員の負担軽減につながりつつある。	TeamsやICT機器の効果的な活用をさらに進め、教職員間で意識を共有していく。今後、さらなる教育効果の向上と効率化を図ってきたい。
	効率的・効果的な活動の推進	計画的な活動によって休養日を確保したり、環境条件に配慮した活動によって安全を確保したりして、担当者の心身の負担を軽減する。また、教職員への個別の声掛けも実施する。	C	教職員への定期的な声掛け等は行っているものの、計画的な休養日の確保には至っていない。	働き方改革の一環として、年度途中から「早く帰ろうDAY」を月に一度、設定した。教職員の心身の健康が教育活動の充実や家庭生活の充実につながることを伝え、ワークライフバランスの確保を推進していく。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。